

2022年11月7日(月) 13:00~14:00 2022年度2Q決算説明会

<質疑応答概要>

Q.

想定を大きく上回る受注が発生したことで限定出荷となったとのことだが、要因として最も大きかったものは何か。

A.

最も大きな要因はオミクロン株 BA.5 の感染拡大に伴う風邪関連処方への伸長だと分析している。例えば扁桃炎に使われる小柴胡湯加桔梗石膏は、7月単月は前同比で約3倍の売上高となっている。

Q.

下期以降、限定出荷品目は需要に対応した生産量を確保できるのか。

A.

限定出荷品目については、需要と生産量を見極めながら、出荷計画を調整している。仮に COVID-19 の第8波とインフルエンザの流行が同時に起こった場合などには急激な需要増が予想されるため、限定出荷の解除については慎重に検討していく。

Q.

不妊症の領域において、当帰芍薬散の市場規模はどれくらいを想定しているか。

A.

現在は基礎研究の結果が出た段階であり、臨床研究などを含めて検討中であることから、市場規模について明確にお示しすることは難しい。

Q.

中国の外部販売の増加は原価率の上昇要因となるか。

A.

現在の中国事業は原料生薬の販売がメインであり、外部販売の増加により原価率が上昇する傾向が当面は継続する見通しである。付加価値の高い飲片の販売拡大、中長期的には中成薬事業への参入により、国内事業と同等以上の利益率を目指していく。

Q.

特別損失に計上されている新型コロナウイルス関連損失はどのようなものか。

A.

上海ロックダウンにより稼働停止となった期間における上海工場の固定費を特別損失として計上している。

Q.

中国事業の第2四半期の売上高が第1四半期に比べて高い金額となっている理由を教えてください。また、下期については第2四半期の売上高の水準が継続するのか。

A.

第1四半期にCOVID-19の影響により製品の出荷に一部遅延が発生していたものが、第2四半期に売上高へ計上されたためである。下期の売上高は計画通りに推移する見通しである。

Q.

足元でも中国において一部地域でロックダウンが発生しているが、売上高に対する大きな影響はないか。

A.

現時点では当社の売上高に大きな影響を及ぼす状況とはなっていない。

Q.

リアルワールドデータはMRの営業活動に活用できるのか。

A.

販売情報提供活動ガイドライン上、営業活動への活用は難しい。

A.

リアルワールドデータによりあたりをつけたうえで基礎研究、臨床研究を進めており、近いうちに論文化される予定のものもある。MRは効能・効果の範囲内で臨床研究の結果をプロモーションに活用することができる。

Q.

医療用漢方製剤の薬価を上げることは可能か。

A.

薬価改定については、市場実勢価に合わせて改定されるため、代理店や医療機関に漢方製剤の現状や価値をお伝えし、漢方製剤の価値に見合った取引をしていただく活動を継続している。

不採算品再算定の制度の対象になった場合には薬価が引き上げられる可能性はあるが、過去には数品目しか実績はなく、本制度の対象となるハードルは高い。

Q.

フェムテックに関連するブランド構築へ投資をする予定はあるか。

A.

将来的な漢方診断サポートシステムの社会実装を想定すると、ブランド構築への投資は非常に重要だと考えている。

Q.

在庫の偏在をなくすシステム等は導入しているか。また、特定の代理店や医療機関に在庫が偏在しているか。

A.

在庫の偏在をなくすことに特化したシステムの導入はしていないが、代理店の販売実績等に基づき出荷の割当をしており、在庫が偏在しているという状況はないと考えている。今後も代理店との協力体制を強化し、安定供給に努めていく。

Q.

更年期障害に関する研究で何か成果が出てきているものはあるか。

A.

当帰芍薬散、加味逍遙散、桂枝茯苓丸などを中心に、更年期障害に対する臨床研究を進めている。近いうちに臨床論文等がいくつか報告できる見込みである。

以上

【注意事項】

本資料の内容は、説明会での質疑応答をそのまま書き起こしたのではなく、主旨を踏まえて要約したものであることをご了承ください。